

人的資本施策と企業パフォーマンスの関連性に関する実証分析 —企業開示データを用いた機械学習(Lasso 回帰)による変数選択アプローチ—

湯山智教¹

専修大学商学部

要 旨

本稿は、近年重要性が高まる人的資本経営に着目し、2023 年 3 月期以降に義務化された人的資本情報の開示によって利用可能となった企業開示データを用い、人的資本施策と収益性・生産性などの企業パフォーマンス指標との関係を定量的に分析する。分析にあたっては、施策項目が多岐にわたるというデータ特性を踏まえ、機械学習手法である Lasso 回帰による変数選択と固定効果モデルを組み合わせた推定手法を採用した。分析の結果、人的資本施策との関係は一様ではなく、施策の種類によって労働生産性や ROA に対して正にも負にも関連する可能性が示唆された。これらの結果は、人的資本施策の効果が形式的な導入の有無ではなく、その実行のあり方に依存する可能性を示すものであり、人的資本経営に関する実証研究に新たな知見を提供する。

キーワード:Lasso 回帰、人的資本、固定効果、機械学習、労働生産性

¹ 専修大学商学部准教授 電子メール:yuyama@senshu-u.jp